

教生学第 942 号

平成 30 年 3 月 2 日

各 教 育 局 長
各 道 立 学 校 長 様
各市町村教育委員会教育長
(各市町村立学校長)

北海道教育庁学校教育局参事 (生徒指導・学校安全) 川 端 雄 一

不登校の早期発見、早期対応等の取組について(通知)

不登校児童生徒への支援等については、これまでも各学校や市町村教育委員会においてきめ細かな対応をしていただいているところですが、この度、道内の学校や市町村教育委員会等の実践事例を紹介した別添の資料を作成しましたので通知します。

については、各学校等において、本資料及び参考通知等を踏まえ、「児童生徒理解・教育支援シート」等を活用した組織的・計画的な不登校児童生徒への支援に積極的に取り組むようお願いいたします。また、各市町村教育委員会においては、各学校等が作成したシート等を基にケース会議の開催や学校等の取組への支援体制づくりに努めるなど、不登校児童生徒への適切な支援を行うようお願いいたします。

〈参考通知〉

- 平成 28 年 9 月 28 日付け教生学第 634 号学校教育局長通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」
- 平成 29 年 3 月 3 日付け教生学第 1112 号当職通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」
- 平成 29 年 12 月 22 日付け教生学第 778 号当職通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」

(生徒指導・学校安全グループ)

不登校の早期発見、早期対応等の取組について

北海道教育委員会（平成30年3月）

不登校児童生徒への適切な対応を図るため、不登校の早期発見、早期対応等に組織的に取り組んだ事例について、道内の学校や市町村教育委員会などの実践例を基に、本資料を作成しました。

各学校等においては、本資料を参考に、「児童生徒理解・教育支援シート」等を活用した組織的・計画的な不登校児童生徒への支援を積極的に推進するとともに、各市町村教育委員会においては、各学校等が作成したシート等を基にケース会議の開催や学校等の取組への支援体制づくりに努めるなど、不登校児童生徒への適切な支援を行うようお願いいたします。

不登校の早期発見、早期対応等に組織的に取り組んだ事例

事例1
養護教諭と連携を図った早期対応の取組

事例2
遅刻を早期発見、早期対応の視点にした取組

事例3
不登校の兆候を見逃さない早期発見の取組

事例4
不登校の早期対応等に係る校内研修の充実を図った取組

事例1：養護教諭と連携を図った早期対応の取組



A高等学校では、養護教諭と学級担任、副担任等の連携により情報収集を行い、不登校傾向が見られる生徒への早期の対応を開始するとともに、「教科担任連絡用紙」を用いて全教職員から生徒の状況を把握し、不登校生徒への組織的・長期的な対応を行っています。

【不登校傾向が見られ始めたA君（1年男子）への対応事例】

1 養護教諭、学級担任、副担任等による

早期の対応

- (1) 情報の収集と共有
 - ・保健室での情報
 - ・友人からの情報
- (2) 不登校傾向への初期対応
 - ・担任による家庭訪問
 - ・養護教諭による面談
 - ・友人からの声かけ（SNS等も活用）

2 生徒指導部、教科担任等を含めた組織的・長期的な対応

- (1) 「教科担任連絡用紙」を用いた連絡会議の開催
 - ・教科担任の情報から、「学習のつまづきが不登校傾向の一因」と分析
- (2) 連絡会議における具体の対応の検討
 - ・教科指導における個別指導の充実
 - ・友人の声かけによる補習等への参加
 - ・面談によるA君の状況の定期的な把握

A君の学習状況の改善に向けた長期的な対応を行った結果、A君の不登校傾向は改善

| 1年〇〇科 教科担任連絡用紙 | |
|----------------------------|--|
| ※気になること(良いことも含めて)を記入してください | |
| 学級担任 | すぐ私語をする、まっすぐ前を見て着席できない、プレザー着用ができていない、あいさつをしない、など、当たり前のことができていない状況があり、指導しています。先生方にも引き続き協力していただくと大変助かります。中間考査が終わり、授業時間、家庭学習の大切さを、面談でそれぞれと確認しております。学力の低い生徒ややる気が見えない生徒も多いますが、学習指導も引き続きよろしくお願い致します。 |
| 国語総合 | やる気が持てないがために、結果学力が身に付かないという状態が小学生段階から続いていると思われる生徒がいる。やる気を起こさせる工夫、声かけをしていく。 |
| 地理A | 授業への参加はよい。私語が多くなってきている。 |
| 数学I | 積極的に授業に参加している。授業の準備ができていない生徒が数名いる。 |
| 科学と人間生活 | 学ぼうという意欲はあるのだが私語が多く、その都度、頭の中が私語の方に引張られ授業に集中できなくなるのが残念。A君が授業に全くついてこれていない。B君の授業態度が悪い、理解しているのでノートに書かないと考え、横向きに座って話しかけている。 |
| 体育 | 現在、グループでダンス授業を展開している。C君が頑張ってる。一方、B君のやる気は全然見えない状況である。 |
| 家庭総合 | 授業の中で作業をさせると必ずA君が遅い。Dさんは友達に聞いて作業を進められるが、A君はそれができない。これから被服実習に入るのどのように進めるか、検討中です。 |
| 建築構造 | チームにわかれて「調べ発表」を行っているが、それぞれよく取り組んでいる。ただ、単元ごとの小テストの取組に関して、A君は自力で進めることはほぼ不可能で、付きっきりで指導している。 |

事例2：遅刻を早期発見、早期対応の視点にした取組

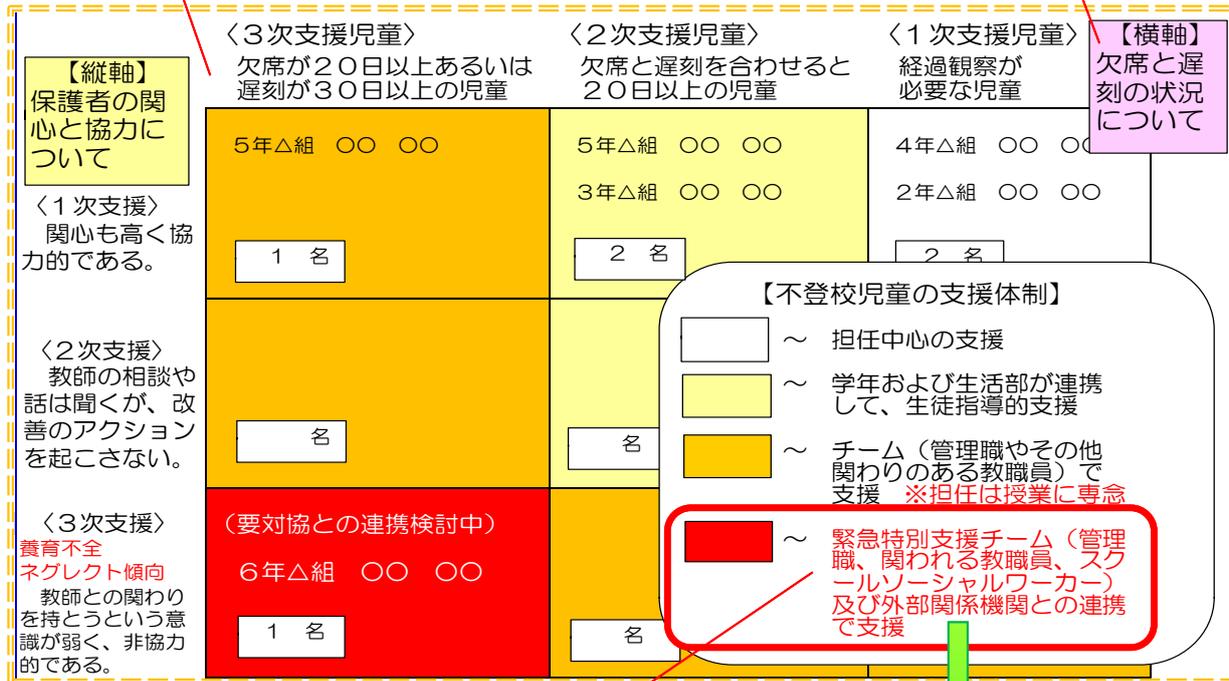


B小学校では、欠席だけでなく、遅刻の状況等に着目し支援体制を構築するとともに、町が小学校に配置しているスクールソーシャルワーカー等と連携を図り、児童との教育相談や保護者との面談、ケース会議等を行うなどして不登校の未然防止に努めています。

1 遅刻の状況等に着目した支援体制の構築

平成29年度、欠席30日未満の不登校傾向の見られる児童は数名いるが、30日以上欠席は0名（4年前の不登校児童10名から大幅に改善）

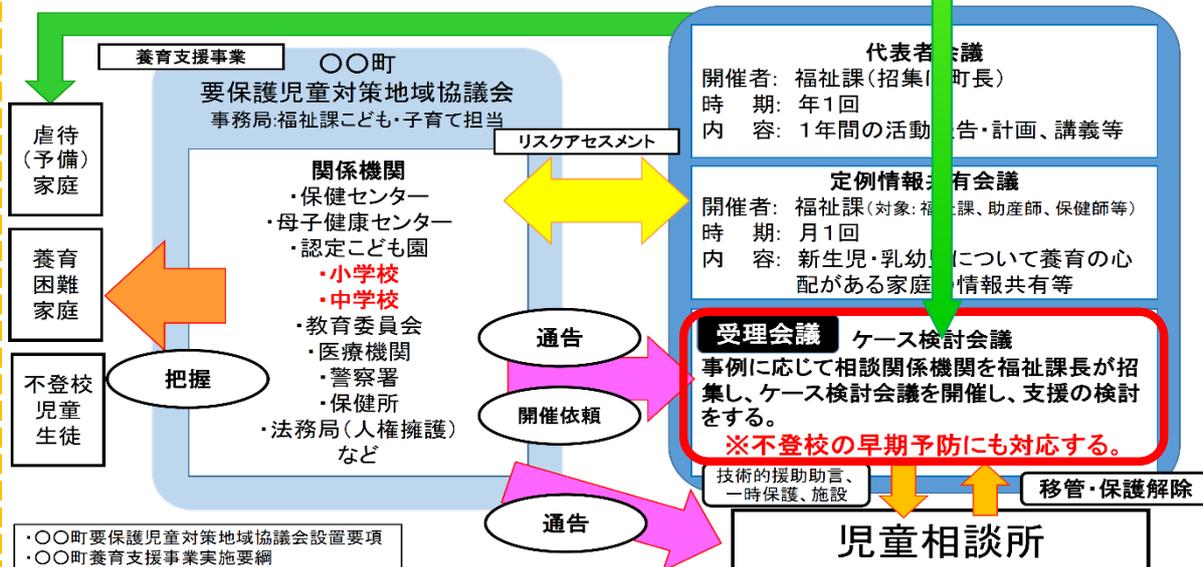
遅刻に着目することで早期対応が可能となっている。



＜3次支援＞が必要な児童や保護者に対して、町が小学校に配置しているスクールソーシャルワーカー等と連携を図り、教育相談等の支援を行っている。

2 関係機関等と連携を図ったケース会議等の実施

〇〇町要保護児童対策地域協議会の位置付け



事例3：不登校の兆候を見逃さない早期発見の取組



C小学校では、「不登校 早期発見・支援プランシート」(平成28年7月、道教委作成)を活用し、不登校傾向が見られる児童の状況を早期の段階で把握するとともに、校内の複数の教職員や支援員等が連携して児童を支援する「チーム支援」を充実させています。

1 「不登校 早期発見・支援プランシート」を活用した初期段階の取組

【C小学校の声】
「カレンダー方式なので、出席簿だけでは分からない情報を記載でき、児童の現状を詳しく把握できる。」

【C小学校独自の工夫】
状況別に色分けし、全教職員で共有

| 児童生徒名 | | 児童生徒の学年と組 | | | | | | |
|----------------------------|----|-----------|----|----|----|----|----|----|
| 1 カレンダー | | | | | | | | |
| 7月 (欠席、遅刻、早退等の状況が月になり始めた月) | | | | | | | | |
| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | | | |
| 8月 (翌月の欠席、遅刻、早退等の状況) | | | | | | | | |
| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | | | |

教室への登校を緑色

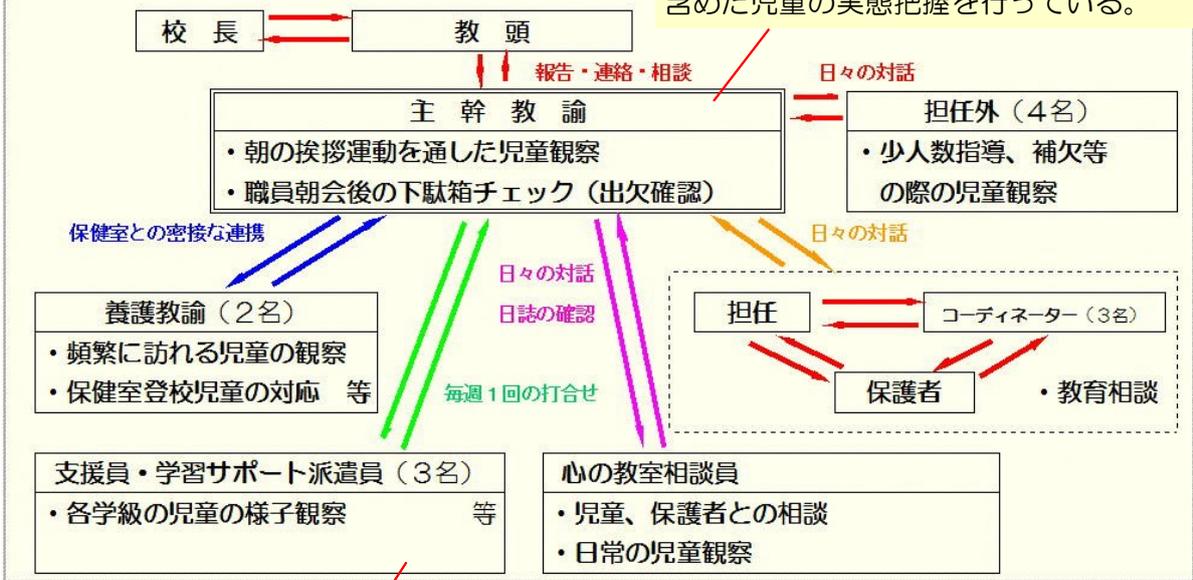
保健室登校を青色

欠席の日を赤色

2 校内の複数の教職員等による情報収集や児童の実態把握

C小学校での情報収集等の流れ

教職員や支援員等がもつ様々な情報を集約・整理する流れを作り、不登校の兆候を含めた児童の実態把握を行っている。



【「チーム支援」の利点】

- 学級担任や養護教諭に責任を負わせない。(抱え込ませない)
- 複数の教職員等が様々な観点で児童に声をかけることができる。
- 学校が組織的に解決方法を相談できる。

事例4：不登校の早期対応等に係る校内研修の充実を図った取組



D中学校では、不登校の早期対応等のため、子ども理解支援ツール「ほっと」の分析に基づく取組の充実を図るとともに、不登校傾向が見られ始めた生徒の状況を「児童生徒理解・教育支援シート」で整理し、教職員の共通理解を図る校内研修を行っています。

1 子ども理解支援ツール「ほっと」の分析に基づく不登校傾向等の早期発見の取組

- (1) 「ほっと」の分析
- ・スクールカウンセラーを講師として、学級ごとに分析

【スクールカウンセラーによる分析】

- ＝思いやりがあり、自分よりも他者を優先するクラス
- △＝「緊張」が強く、相手の顔を過剰にうかがっている可能性

※欠席や遅刻が見られ始めたD君も、「拒否」と「緊張」が大きく下回っている状況

□年□組「ほっと」13要素偏差値



【スクールカウンセラーの助言】

改善の方向性：ソーシャルスキルトレーニングなどにより、生徒は意思を伝えるスキルを学ぶ必要がある。

【「ほっと」の分析結果やスクールカウンセラーの助言に基づく、教職員の協議の内容】

協議の結論：次回の校内研修で、ソーシャルスキルトレーニングについて教職員が理解を深めること。
また、各教科、領域等において、様々な体験の共有や具体的な諸問題の解決を通して、互いに尊重し合い、協働的に学び合えるよう、ペアやグループでの伝え合う活動の充実を図ること。

- (2) 「ほっと」の分析結果等を踏まえた協議
- ・今後の学習指導や生徒指導等の在り方に係る演習・協議

2 「児童生徒理解・教育支援シート」を活用した教職員共通理解を図る取組

- (1) 生徒や保護者の状況等の整理

- ・上記1の校内研修で名前の挙がったD君について、後日、スクールカウンセラーがD君及び保護者と面談を実施
- ・その内容を、スクールカウンセラーが「児童生徒理解・教育支援シート」の本人や保護者の状況等に整理

- (2) 「具体的な支援方針」の検討

- ・今後の「具体的な支援方針」を全教職員で記入し、交流
- ・D君と保護者への組織的な対応について確認

D君の「児童生徒理解・教育支援シート」

○ 本人の状況・意向

2学期 12月22日

- ・理科の授業内容があまり理解できないことを気にしている。
- ・自分の思いを友人に上手く伝えられず、我慢することも多い。
- ・朝、起きたときに、「今日は休みたい」と思うことが最近多いが友人が迎えに来てくれているので頑張って登校している。

○ 保護者の状況・意向

2学期 12月22日

- ・本人は、成績が上がらないことを悩んでいるようである。
- ・成績のことはあまり気にせず、友だちと仲よく過ごしてくれればよいと考えている。

○ 具体的な支援方針

| | 目 標 | 具体的な支援内容 | | 経過・評価 |
|-----|-----|----------|------|-------|
| | | 学 校 | 関係機関 | |
| 3学期 | | | | |